

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文								
	ページ	行										
1	88	表 1	表 1 共生培養法と無菌播種法の利点と欠点 (一方の利点は、他方の欠点となる) <table><tr><th>共生培養法の利点</th><th>共生培養法の欠点</th></tr><tr><td>①初期生育が促進される。 ②順化が容易である。 ③無菌播種法では発芽・生育が困難なランの繁殖への利用が期待できる。</td><td>①生育を促進するラン菌を分離する必要がある。 ②分離したラン菌を継続して培養する必要がある。 ③ランの種類に応じて、生育を促進するラン菌を選択する必要がある。</td></tr><tr><th>無菌播種法の利点</th><th>無菌播種法の欠点</th></tr><tr><td>①ラン菌を必要としない。 ②操作が簡便である。</td><td>①ランの種類によって、培地組成を工夫する必要がある。 ②初期生育が緩慢である。 ③無菌播種法では発芽・生育が困難な種類がある。 ④ランの種類によっては、順化が困難である。</td></tr></table>	共生培養法の利点	共生培養法の欠点	①初期生育が促進される。 ②順化が容易である。 ③無菌播種法では発芽・生育が困難なランの繁殖への利用が期待できる。	①生育を促進するラン菌を分離する必要がある。 ②分離したラン菌を継続して培養する必要がある。 ③ランの種類に応じて、生育を促進するラン菌を選択する必要がある。	無菌播種法の利点	無菌播種法の欠点	①ラン菌を必要としない。 ②操作が簡便である。	①ランの種類によって、培地組成を工夫する必要がある。 ②初期生育が緩慢である。 ③無菌播種法では発芽・生育が困難な種類がある。 ④ランの種類によっては、順化が困難である。	③無菌播種法で発芽・生育が困難な種類のランに対しても、 (削除)
共生培養法の利点	共生培養法の欠点											
①初期生育が促進される。 ②順化が容易である。 ③無菌播種法では発芽・生育が困難なランの繁殖への利用が期待できる。	①生育を促進するラン菌を分離する必要がある。 ②分離したラン菌を継続して培養する必要がある。 ③ランの種類に応じて、生育を促進するラン菌を選択する必要がある。											
無菌播種法の利点	無菌播種法の欠点											
①ラン菌を必要としない。 ②操作が簡便である。	①ランの種類によって、培地組成を工夫する必要がある。 ②初期生育が緩慢である。 ③無菌播種法では発芽・生育が困難な種類がある。 ④ランの種類によっては、順化が困難である。											